


平成30年度国立天文台研究集会開催報告書

平成30年 3月 27日

国立天文台長 殿

代表者	氏名	(ふりがな) よこやま たかあき 横山 央明 
	所属・職	東京大学 大学院理学系研究科 ・ 准教授
研究集会名	太陽研連シンポジウム「太陽研究の将来展望」	
開催期間	2019年 2月 18日 ～ 2019年 2月 20日	
開催場所	名古屋大学 理学南館 坂田・平田ホール	
参加人数・国数 (国数は所属機関の国数)	75名・2か国	
発表資料等の情報	https://hinode.nao.ac.jp/renrakukai/symposium.html	
	研究集会のプログラムや発表資料等をまとめたHPがあればURLを記載してください。提出後に作成された場合もご連絡ください。国立天文台研究交流委員会HPにリンクを張らせていただきます。HPではなく、論文や冊子を作成している場合は、可能であれば一部ご提供ください。(論文の場合はDOIの情報でも可)	
研究集会の概要	<p>本年度の太陽研連シンポジウムは、国内外で推進されている太陽およびその関連研究について、最新科学成果のレビューに基づく科学討議、また太陽研究の将来についての討議を通じて、将来の研究方向性についての共通意見形成を図ることを主たる目的として行った。さらに、本年度のシンポジウムでは、太陽物理周辺諸分野の研究進展をレビューすることで太陽物理学との関連、位置付けおよび将来展望を議論した。</p> <p>太陽物理学の分野は、この先十年以内に次世代太陽観測衛星Solar-C_EUVSTをはじめ、太陽観測ロケット実験CLASP2、国際大気球太陽観測実験SUNRISE-3など、多数の魅力的なミッションが計画されており、そのミッションをどう遂行していくか、さらにはどのようにミッションとミッションを連携させていくか重要である。その方針が、コミュニティ内外での活発な議論により得られた。</p>	

<p>研究集会の成果</p>	<p>次世代太陽観測衛星Solar-C_EUVSTを軸とした将来スペースミッションと太陽研究の将来展望についての議論を行った。Solar-C_EUVSTからその先の2030年代への展望、来年度初頭に打ち上げられる太陽観測ロケット実験CLASP2、国際大気球太陽観測実験SUNRISE-3、そしてそれらのミッションで行うサイエンスに関する議論が行われた。太陽研究者各人がどのようにこれらのミッションに参画し貢献していくかを検討するための良い情報が得られる内容であった。さらに、数値モデリングおよび地上観測の視点でどのように現在提案されているミッションに参画していくかが議論され、様々な科学課題に関して重要な連携研究が提案された。</p> <p>各観測プロジェクトからの報告では、現状報告に加え今後の方針に関する議論もあり、特にスペース観測と地上観測の今後の関係など、活発に議論が行われた。</p> <p>本年度の博士論文に関する招待講演が4件行われ、若者の最新の研究成果を広くコミュニティで共有することができた。本年度の博士論文は数値シミュレーションを用いた研究が多く、今後の太陽観測研究に期待したい。地球物理分野や核融合プラズマ分野の方々による招待講演、太陽・地球・その他の環境の研究に関する一般講演も行われ、太陽物理周辺諸分野の研究進展をレビューすることで太陽物理学との関連、位置付けおよび将来の共同研究に関して情報共有をすることができた。</p> <p>最後に現在進行中である新学術領域PSTEPの現状と今後についての議論が行われた。PSTEPは来年度が最終年度であり、その先をどうするかなど、活発に議論が行われた。</p>
<p>その他参考となる事項 (希望事項も含む)</p>	